

互いを認め合う人間関係づくりができる生徒の育成

—他者のよさが見える「EAST」を通して—

特別研修員 生徒指導・教育相談 高山篤志(中学校教諭)

【生徒の実態】

- ・友達同士で認め合う機会が少ない
- ・固定化した人間関係による学校生活への不安

【目指す生徒像】

互いを認め合う
人間関係づくりができる生徒

- 手立て
- EASTを盛り込んだ授業の工夫
 - 人と積極的に関わるグループ学習の工夫
 - 他者のよさを認め学校生活に生かせる工夫

※「EAST」とは、学校の共通のテーマ

E 笑顔 笑顔で接する

実践1 「リフレーミングを通して、自他の“よさ”を知る ～自分のよさを知る、友達のよさを知る～」

1クラスで



友達を思いやる言葉で
(T 友達)

グループで相談しながらリフレーミング
他者のよさを理解



笑顔で渡そう
(E 笑顔)

友達からのリフレーミングと応援メッセージ
自分のよさを理解

実践2 「学校生活を頑張っている友達に言葉で伝える ～友達の頑張りを認める～」

2クラス合同で



お互いにあいさつ
(A あいさつ)



インタビューで友達のよさを見付ける

頑張っている様子を言葉で伝える



あなたの良い所
は〇〇です

うれしいなあ
(T 友達)

S 掃除 自分の回りをきれいにする

自他の
よさを知る

積極的に認め合う人間関係

よさを言葉で
伝える

成果

- グループ活動としてリフレーミングを行うことで、友達と関わろうとする姿が多く見られた。
- 他者のよさが見えたことで、「もっと相手の良い所を見たい(知りたい)」という生徒が大半を占めるようになった。
- 相手のよさを言葉で伝え合う活動を通して、互いを認め合うことの大切さを実感していた。

課題

- 男子生徒の46%が、積極的に他者と関わることに自信を持ってない状況にある。互いに認め合う活動を工夫し、継続して行うことで、人と関わる機会を増やしたい。
- 付箋やワークシートに書き込み、視覚的に見えるものとして残るように工夫する必要がある。
- 学校生活や行事等の様々な場面に、EASTを入れて日常生活で意識的に取り組めるようにする必要がある。

T 友達

友達をたくさんつくり大切にする

A あいさつ

元気よく、しっかりとした、あいさつ